

冬期の姫路市飾東町付近の子囊菌調査から分かること

岡田英士（姫路科学館自然系ジュニア学芸員・兵庫県立姫路飾西高等学校）

はじめに

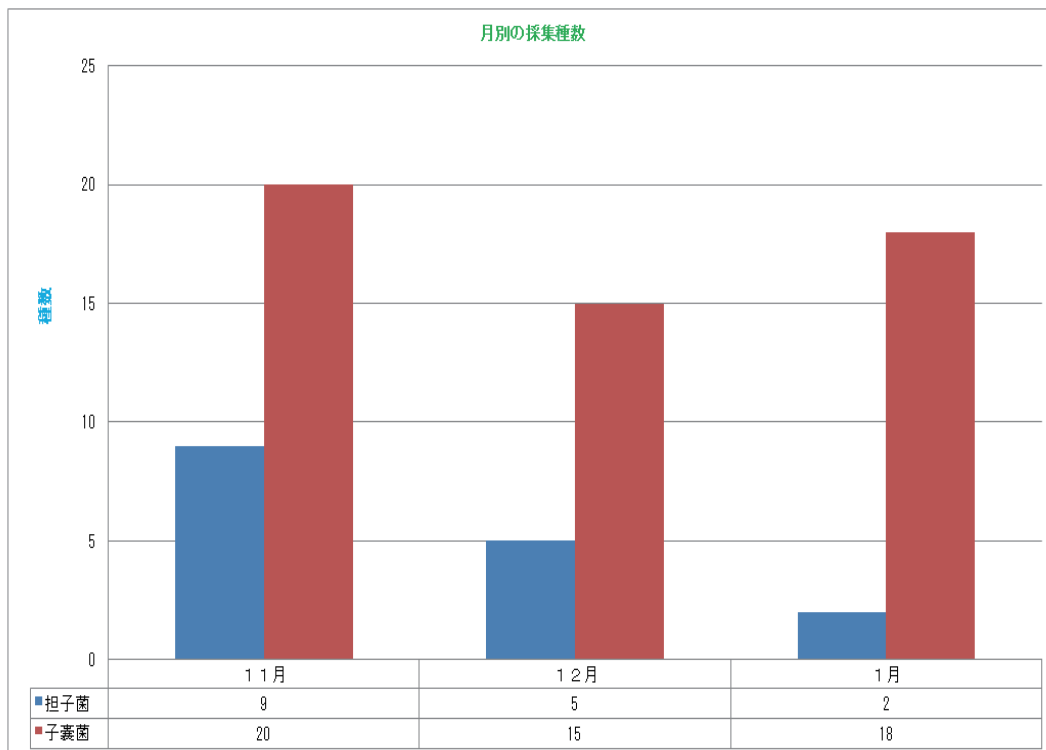
私が調査をしている姫路市飾東町付近には、山、川、野原などの自然が近くに多くありその一つに佐良和の歳徳神社、大歳神社があります。その神社は、姫路城之鬼門守護神が祀られ姫路城主16代藩主羽柴秀長が神社名を命名したと伝えられています。その歳徳神社、大歳神社間の参道沿いに発生したきのこを採集しました。また、担子菌と子囊菌で種数を比較しました。

調査方法

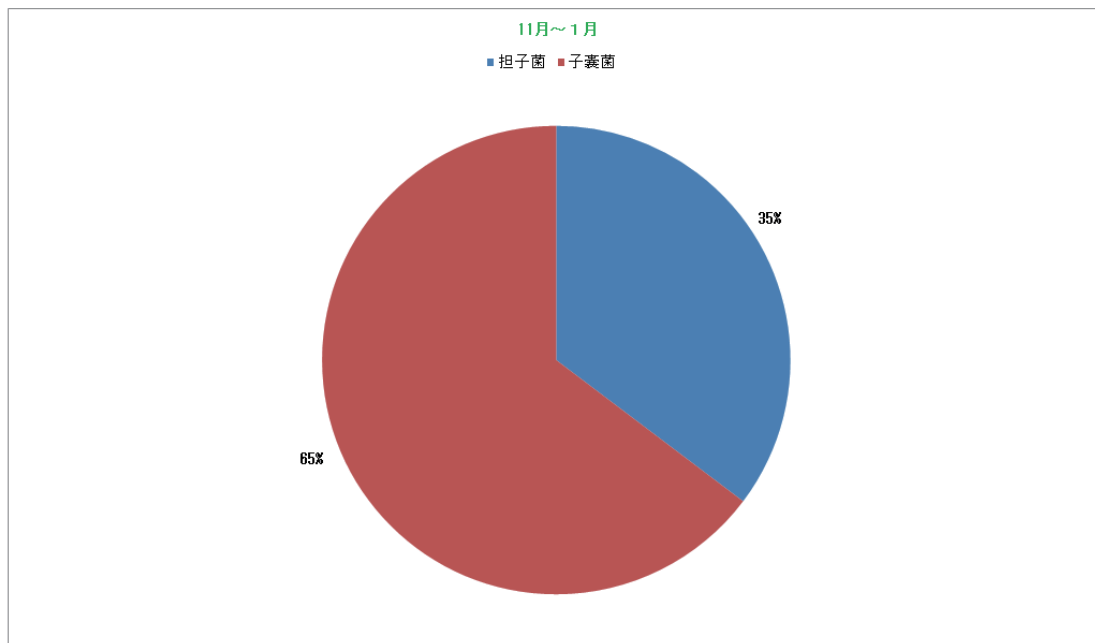
2015年11月～2016年1月にかけて月2回ほどの回数で歳徳神社と大歳神社間の参道沿いに発生したきのこを採集し同定できるものに関しては同定した。また一部の子囊菌、担子菌等を採集・記録し乾燥標本として保存した。

結果

3ヶ月間で計9回調査を行った。予想していたよりも多くの種が観察された。また各月ごとに見ると子囊菌の発生は安定しているが担子菌の発生は減少している（グラフ(1)）、そして全体を通して担子菌より子囊菌のほうが多い（グラフ(2)）。



月別の採集種数 (1)



2015年11月～2016年1月の種類割合 (2)

考察

グラフ(1)、(2)を見てわかることは、担子菌より子囊菌のほうが少ないことが分ります。これは気温が下がるにつれ担子菌類(肉質の子実体を形成するもの)は活動が低下し子囊菌類(微少なものや硬質の子実体を形成するもの)が増えてきたことによると思われる。

種名 (子囊菌)
オオミクロコブタケ
クココブタケ
ロゼリニア属 s p、1
ロゼリニア属 s p、2
ヒメテングノメシガイ
ナナフシテングノメシガイ
ヒボミクス属 s p、1
ヒボミクス属 s p、2
ビョウタケ属 s p、1
ビョウタケ属 s p、2
ビョウタケ属 s p、3
ビョウタケ属 s p、4
ニセクロチャワンタケ
ツバキキンカクチャワンタケ
チャワンタケ属 s p、1
チャワンタケ属 s p、2
セミノハリセンボン
アカコブタケ
不明種、1
不明種、2
不明種、3
不明種、4

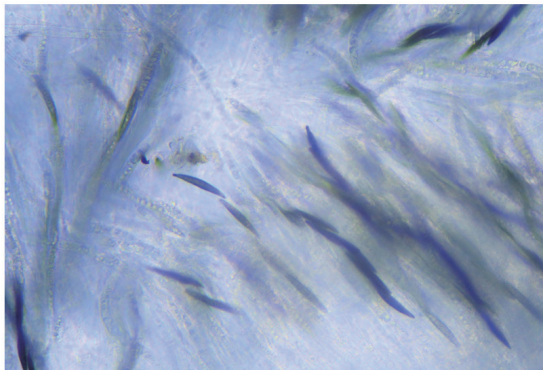
種名 (担子菌)
ムラサキシメジ
ウスムラサキシメジ
ヒラタケ
アセタケ属 s p
オオキツネタケ
ウラムラサキ
カレエダタケモドキ
モミジタケ
不明種、1
不明種、2
不明種、3
不明種、4



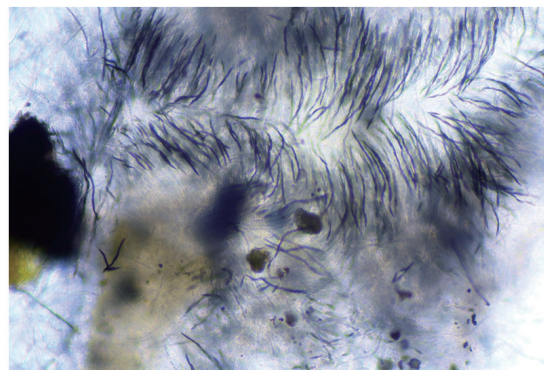
(a) ロゼリニアSP No.1



(b) ロゼリニアSP No.2



(c) ロゼリニアSP No.1



(d) ロゼリニアSP No.1



(e) ヒボミクスSP



(f) クロヒメチャウソウ

まとめ

今回の調査では、あまり目につけない冬場のきのこを調べるにあたって予想よりも多くの種に出会えて良かった。また、今回の調査では不明種が多く、それらも引き続き調査していきたいと思います。神社など身近な環境に様々な種が生息していることがあらためて分かりました。これは人々の生活環境のそばで多種多様な菌類が生きているその自然環境を大事にする必要性を示していると思う。

最後に、今回のレポートを書くにあたって採集した種の同定に協力してくれましたきのこグループの平山吉澄先生や会員の皆様、また色々なアドバイスをして下さった姫路科学館学芸員相楽充紀様に、この場をお借りして感謝を申し上げます。